

《 VII 社会的活動 》

1 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

（1）社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

社会に貢献する短期大学を目指して、3学科と専攻科の知的資源・人的資源を活かした地域社会と本学の発展に寄与する各種の社会的活動を行っている。活動範囲は地元のポートアイランド地域を中心とする神戸市と周辺都市であり、活動分野は教育・文化・芸術・環境・福祉・食・健康・観光など、多岐にわたっている。

平成20年1月には神戸市中央区と「連携協力に関する協定」を締結し、教員と学生が一体となって連携事業を展開している。またポートアイランドに隣接する4大学の合同企画による平成20年度文部科学省大学改革推進等補助金採択事業として「ポーアイ4大学による連携事業—安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として—」が採択され、その取組みが進行中である。

以上の社会的活動は高等教育機関として公的な使命を果たすだけでなく、地域社会から信頼を得ることになる。また、その取組みや成果は本学の教育・研究の発展にとって貴重な手掛かりになる。今後も、成果を検証しながら継続的に発展させるつもりである。

◆参考資料 59 「学校法人行吉学園と神戸市中央区との連携協力に関する協定書(写)」参照。

60 「平成20年度文部科学省大学改革推進等補助金採択『ポーアイ4大学による連携事業—安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として—』」参照。

（2）社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

入試区分に「社会人特別入試制度」を設けて社会人を受け入れている。入学者は、平成19年度は1人、平成20年度は3人、平成21年度は1人である。生涯学習社会において短期大学が社会人に門戸を開く意義は大きく、他の学生の教育や生活指導にとっても多大の利点がある。今後も、現行の制度を継続していく。

◆添付資料4(再掲)「神戸女子大学・神戸女子短期大学 入試要項 2009」(p.48)参照。

（3）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本学と神戸女子大学との共同参画による「神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ」を毎年、春期・夏期・秋期・冬期の4期に分けて実施している。

また短期大学独自の地域社会に向けた企画として、食と健康に関連した「食育シンポジウム」「男性のための料理教室」「介護予防のための料理講習会」「子どもの料理教室」「わくわく Farm」の講座を実施している。平成19年度には、「ターシャ・テューダを語

Ⅶ 社会的活動

る」の公開講座を行い、一般来場者 165 人の参加があった。以下は、各講座の参加人数である。

講座名	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
食育シンポジウム（年 1 回）	80 人	80 人	104 人
男性のための料理教室（年 1 回）	24 人	24 人	24 人
介護予防のための料理講習会（年 1 回）	8 人	7 人	24 人
子どもの料理教室（年 5 回）	125 人	122 人	122 人
わくわく Farm（年 4～10 回）	286 人	510 人	435 人

◆参考資料 61 「神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ 2008」参照。

（４）過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

地域連携推進委員会が推進の窓口となり、教員の地域貢献活動を毎年調査して一覧表にしている。平成 18 年度は 87 件、19 年度は 137 件、20 年度は 143 件である。以下は、その主な活動である。

1) 自治体

- ・神戸市中央区：「連携協力に関する協定」平成 20 年 1 月締結
震災復興や社会情勢の変化を踏まえ、区民との協働による中央区中期計画に参画し、教員がまちづくり会議の委員として協力している。また年間を通して、市民対象イベントに協力している。
- ・神戸市環境局地球環境課
神戸市エコタウン「まち美化エンジェル」システムに参画し、クリーン作戦・禁煙キャンペーンを定期的に行っている。

2) 商工業

- ・神戸市商工会議所 神戸空港利用推進協議会
神戸空港へのニーズを継続的に把握し、利用推進策を検討する資料とするために、搭乗客へのアンケート調査・集計を委託された。
- ・神戸市交通局
交通フェスティバル等のイベントに学生ボランティアの要請があり、参加した。

3) 教育機関

- ・ポートアイランド内大学の連携
平成 20 年度文部科学省大学改革推進等補助金採択事業「ポーアイ 4 大学による連携事業—安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として—」に採択された。
- ・神戸市立港島中学校
兵庫県教育委員会「トライやる・ウィーク」の一環として、毎年、神戸市立港島中学校生徒の職場体験を受け入れている。
- ・神戸市立港島小学校
神戸市教育委員会と連携して、本学の学生が神戸市立港島小学校の児童へのスク

ールサポーターを行っている。

- ・神戸市立港島幼稚園・私立ポートピア保育園

本学の敷地内で、神戸市立港島幼稚園・私立ポートピア保育園が野菜栽培・収穫の体験をする「わくわく Farm」や園児と保護者が動物と触れ合う動物介在活動 A A (Animal Assisted Activity) を行っている。

4) その他団体等

- ・ポートアイランド住民の自治会内クラブの文化祭と本学の学園祭を連携させ、相互に作品展示を行っている。
- ・平成 19 年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に本学（神戸女子大学と共同）の「フリーター・ニート・主婦のための再チャレンジ支援講座」が採択され、当初から本学の教員が講師を務めている。また、平成 20 年度より本学の教員が運営委員長を務めている。この事業は、地域の諸団体（男女共同参画センター、生きがい仕事サポートセンター等）と連携協力しながら推進している。

◆参考資料 62「地域貢献活動調査結果 平成 18～20 年度」参照。

2【学生の社会的活動について】

(1) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

注：() は、過去 3 ヶ年⑱⑲⑳の参加学生延べ人数。

1) 学生による地域のクリーン活動

- ・学友会の学生が中心となり、ポートアイランド内の他大学と協力して通学路のクリーン活動を定期的に行っている。(⑱20 人、⑲20 人、⑳20 人)
- ・同好会の学生が中心となり、三宮センター街周辺、神戸まつり・成人式会場のクリーン活動及び禁煙キャンペーンを毎年行っている。(⑱80 人、⑲83 人、⑳25 人)

2) 地域観光活性化のボランティア活動

- ・神戸空港開港記念イベントをはじめ、空の日イベントや利用客アンケート調査に協力している。(⑱87 人、⑲74 人、⑳47 人)
- ・神戸市の観光イベント「北野町の路上にチューリップの花びらで巨大絵画を描くイベント」に参加している。(⑱8 人、⑲5 人、⑳0 人)

3) 食育・健康講座におけるボランティア活動

- ・本学教員が関わる講座にボランティアとして参加している。主なものは、子どもの料理教室(⑱183 人、⑲173 人、⑳189 人)、V ネット(⑱22 人、⑲20 人、⑳17 人)、禁煙推進活動(⑱10 人、⑲10 人、⑳10 人)、男性のための料理教室(⑱2 人、⑲7 人、⑳8 人)、介護予防と介護予防のための料理講習会(⑱2 人、⑲5 人、⑳6 人)、動物介在活動(⑱6 人、⑲4 人、⑳0 人)、食育シンポジウム(⑱5 人、⑲9 人、⑳8 人)、農村体験型食育活動(⑱10 人、⑲10 人、⑳11 人)である。

4) 教育・保育・芸術分野におけるボランティア活動

Ⅶ 社会的活動

- ・本学グラウンド「わくわく Farm」での野菜栽培・収穫祭に年 10 回程度、地域の幼稚園児を招いて交流している。(18460 人、19481 人、20338 人)
 - ・神戸市教育委員会と連携して、小学校へのスクールサポーター活動を定期的に行っている。(18121 人、1990 人、20132 人)
 - ・クラブの学生が、地元児童館等でのクリスマス会、神社の七五三で人形劇を上演している。(1850 人、1937 人、2055 人)
 - ・神戸港湾事業の一環で、ケーソンに子どもたちが絵を描くイベントに補助要員として参加している。(180 人、1916 人、2015 人)
 - ・クラブの学生が、地元住民主催の音楽コンサートに参加し演奏している。(186 人、196 人、2013 人)
 - ・地元の公立病院小児科病棟でお楽しみ会を開催している。(188 人、194 人、204 人)
 - ・学外向け講座の開催時に、受講者のための託児ルームにおいて一時保育を担当している。(1830 人、1920 人、203 人)
 - ・幼児教育学科の学生が、春・夏季休業中及び平日の授業終了後に幼稚園の保育ボランティアをしている。(18105 人、19100 人、2079 人)
- 5) 神戸市中央区との連携活動における学生参画とボランティア活動
- ・中央区との連携活動の準備委員会に出席して地元の方々とイベントを企画し、主催者とともにボランティア活動をしている。(180 人、193 人、2024 人)
 - ・中央区長と大学生との会議に参加している。(180 人、190 人、201 人)
- 6) 神戸水上警察署長に意見を具申する会議に参加している。(180 人、191 人、201 人)
- ◆参考資料 62 (再掲)「地域貢献活動調査結果 平成 18～20 年度」参照。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

2 年という短い在学期間中に、学生が地域活動及び地域貢献活動を体験することには難しさもあるが、高い教育効果があると考えている。ボランティア活動は、主催者からの依頼に始まり、打ち合わせ、当日の活動、後片付けという過程をたどり、大学の教室では得がたいコミュニケーション力と実行力を身に付けることのできる実践教育の場である。活動当日の参加者の声や事後の感謝の言葉は、本人の満足度を高めるばかりでなく、次回も参加したいという前向きの姿勢を育てている。ボランティア活動の体験は就職活動での自己PRにも役立ち、社会人基礎力の養成にもつながっていると考えている。

学生への評価としては、1 年間ボランティア活動等に励んだ学生に対して、毎年度、「ブルーム賞」として学長から表彰される。

◆添付資料 1 (再掲)「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」(p. 29) 参照。

◆参考資料 36 (再掲)「行吉学園学生表彰規程」参照。

3【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む)の状況を記述して下さい。

国際化の時代に対応するため、昭和58年にハワイにセミナーハウスを設立し、語学学習と異文化の理解を目的にしたハワイ大学との連携による英語研修を行っている。平成18年度までは年に3回、それ以降は年に2回実施し、研修期間は約1ヶ月間である。

ハワイ大学での受け入れは、マノア校アウトリッジカレッジのNICEプログラムに則ったカリキュラムにより実施し、月～金曜日まで1日4時間の授業を行い、修了者には「海外語学演習」3単位が与えられる。過去3ヶ年の参加者状況は下記の通りである。

ハワイ大学語学研修 参加学生数

年 度	平成18年度			平成19年度		平成20年度	
	夏期	冬期	春期	夏期	春期	夏期	春期
合計(人)	12	3	6	6	9	6	5

◆添付資料1(再掲)「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」(pp.154-155)参照。

◆参考資料63「HAWAII SEMINAR(案内リーフレット)」参照。

64「HAWAII SEMINAR(事前指導資料)」参照。

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

過去3ヶ年における本学と海外教育機関等との交流はない。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

平成18年度：韓国(威徳大学、啓明大学他。学校給食の実態調査)2人、ドイツ(国際ソーシャルワーク学会出席・発表)1人、トルコ・北イタリア・スウェーデン(クレオール料理、スローフード、食育の調査研究)1人、米国(スタンフォード大学。アメリカ文学の研究)1人、ミャンマー(ローゼル食利用の実態調査)1人。

平成19年度：ドイツ(フリードリッヒ＝シラー大学。新英語文学研究学会国際会議出席・発表)1人、米国(スタンフォード大学。比較文学の研究)1人、北イタリア・スイス(スローフードの調査研究)1人、米国(RACMEM国際会議発表)1人、中国(琉球文化調査)1人。

平成20年度：米国(スタンフォード大学。アメリカ文学の研究)1人。

◆参考資料65「行吉学園国内留学規程」参照。

66「行吉学園海外留学規程」参照。

4【特記事項について】

(1) この《VII社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

「大学コンソーシアムひょうご神戸」において本学の教員が高大交流委員会委員を務め、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県下高等学校及び加盟大学との連携事業に参画している。また神戸市ポートアイランド内に隣接する4大学が神戸ポートアイランド4大学連携協定を結び、学生支援、教務、図書館、エクステンション、入試広報等の連携を図りつつ、各大学の知的財産を活かした市民・企業・行政機関との交流事業を行っている。平成20年度には文部科学省大学改革推進等補助金採択事業「ポーアイ4大学による連携事業—安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として—」に採択され、社会的に高い評価を得た。この事業のうち「ポーアイ健康推進プロジェクト」については神戸女子短期大学・神戸女子大学と兵庫医療大学が中心的な役割を担い、それぞれの設置学科の特性を活かした活動を行っている。このように本学では、地域の期待に応えられる社会的活動を展開していると考えている。

◆参考資料 67「大学コンソーシアムひょうご神戸規程」参照。

68「4大学連携プロジェクト 健康・生活・安心サポート—健康生活を守るための介護予防・介護する人の支援」参照。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし。